

『 被災児童の遊びの観察 』

【概要】

9月12日～14日、学校法人志賀学園、平第一幼稚園と平第二幼稚園でワークショップを行った。12日は絵本の読み聞かせ、13日と14日にはそれぞれ寸劇を交えたワークショップを開催した。

平第一幼稚園および平第二幼稚園のいずれも、東京電力福島第一原子力発電所から30Km以上離れた地域にあり、2011年9月現在、屋内避難の警告などは発令されていない。しかし、放射能が大人よりも子どもに身体的被害をもたらすことなどから保護者の不安は大きく、幼稚園の方針として外遊びを禁止している。2011年5月当初は、園内で突如泣きだす児童も多くみられたが、そのような様子も特になく、児童らは室内で遊んでいる。運動会も体育館で行われた。

特に平第一幼稚園は、2011年3月11日東日本大震災の津波被害によって壊された、久之浜幼稚園の園児の受け入れ先である。県外避難のため転校した児童を鑑みても、通常の1.5倍ほどの児童が生活している。



【問題意識】

ピアジェによると、子どもの発達には自発的な遊びによるという。外遊びはこれに欠かせない保育環境のひとつだ。多くの幼稚園において児童は、園庭や裏庭で自ら遊びを作り、物語をつむぎ、想像力を働かせている。失われた機会を補填できるような取り組みが必要である。

また、震災後の心のケアはどのように行われるのだろうか。一方的なメンタルケアの限界を認識し、双方向性の関係性の中でストレスを解消できないだろうか。児童たちの内なる心を、表現を通じて共有し、寄り添うことが必要だ。

【活動内容】

- ・「絵本の読み聞かせ」；20～30人の児童を対象に、絵本の読み聞かせを行った。狙いは、園内での保育活動の補助、園児との関係構築にある。擬態音の多さ、色彩の鮮やかさ、テーマなどを考慮して絵本を選んだ。
- ・「まほうの絨毯をつくろう」；年中児童3クラスを対象に、寸劇の導入を交えたフィンガーペインティングのワークショップを行った。活動の狙いは、体を使った自己表現である。寸劇のあらすじは、きれいで素敵な大切な魔法の絨毯が盗まれてしまったため、友達（児童ら）に新しい絨毯を作成してもらおうというものである。模造紙、クレヨン、色鉛筆、ポスターカラーを利用した。13日に行った平第一幼稚園では、水の入ったバケツを児童らに渡したところ、水を多用したためポスターカラーが混ざってしまい以下の写真のような緑色の作品が多くできあがった。14日に行った平第二幼稚園ではバケツを用意しなかったところ、ポスターカラーの原色である黄色やピンクが目立つ作品となった。大学生も一緒に加わって、対話を重ねながら活動を楽しんだ。

【今後の活動】

児童たちと作成した「まほうの絨毯」についての考察を深め、秋以降も継続的な交流と活動を行う。

